

「山口型放牧の今」山口県農林総合技術センター秋友専門研究員へのご質問

	質 問	回 答
1	放牧地を借りる場合の費用などの設定はどのようになされていますか？	放牧を初めて実施する場合、地元の理解を得るための技術内容等の説明や研修会を実施することはありますが、放牧地の貸借について当方が介入することはなく、地元で調整がなされます。
2	分娩1か月前まで、もしくはさらに期間を延長して放牧、というお話がありました。母牛の栄養状態や分娩、子牛の状態に問題はありませんか。	母牛の栄養状態については、分娩1か月前にかかわらず、放牧地の草量や母牛の状態を見て、早めに退牧することはあります。 放牧期間の延長のため、周年放牧技術を活用した事例は、県内にはありません。
3	糞尿や匂いについて指摘されたことなどはありますか？	糞尿や匂いについて地元の指摘を受けたことはありません。 そのような事態にならないためにも、放牧地の選定等、事前に十分な説明を実施しています。
4	近年、取組面積が減少傾向にあり、管理に手間がかかるとの意見があるようですが。実際のところ、舎飼いと比較して労務負担は大きいものなのでしょうか。	取組面積の減少は、放牧飼養は舎飼いと比較して労働負担が大きいからということではなく、放牧に新規に取り組みたいと思っても、放牧牛や放牧施設の管理に不安があったり、高齢化による人手不足のためと思われる。 舎飼いと放牧では明らかに放牧の方が労働負担は少ないと思われます。ただし、現状では妊娠期間中の放牧に限られるため、飼養管理の省力効果についてはある程度は限定的といえます。

5	放牧する際に毒のある草の対策は何かされてるでしょうか？	放牧地に採食可能な草が十分にあれば、牛は有毒植物を採食することはないので、有毒植物を除去する等の積極的な対策は特にしていませんが、放牧地に有毒植物があるかどうかの確認と採食可能な草の量が十分にあるかどうかについては目視等で確認します。
6	<p>放牧面積ピークから70ヘクタール減少していますが、放牧をやめた所を再び他の方が利用するようなケースはありますか。当地域でも高齢化、牛舎から放牧地が離れているなどのことから放牧面積が減少しています。</p> <p>放牧を増やしていくには、今後、どのような方策が考えられるかアドバイスがありましたらよろしくお願いします。</p>	<p>放牧を止めた所を再び他の方が利用するケースの有無については特に把握していませんし、そのような情報は現時点では入って来ていません。</p> <p>放牧を増やす方策ということですが、放牧面積や放牧頭数をただ単に増やすということではなく、肉用牛飼養者が、放牧飼養を必要としているかどうかに関係すると思います。</p> <p>農家が放牧したいのに、その一歩を踏み出せないとか、始めるに当たって障害となることがあれば、その状況に応じた解決策を都度講じていく必要はあると思います。</p>
7	放牧牛に肝蛭の感染はありませんか？治療薬の国内販売が終了して対応に困っている農家さんが県内にいるのですが、どう対応されているかお分かりになれば教えてください。	<p>当部のレンタカウについては、肝蛭に感染した事例はありません。</p> <p>行政から指導機関に対して、農林水産省ホームページに放牧時の肝蛭感染リスクを低減するための留意事項が掲載されている旨の情報提供はなされています。</p>